

仕 様 書

1. 件 名： 人工呼吸器

2. 仕様、数量等： 別紙「要求仕様書」の要件を全て満たしたものであること。

3. 納入場所： 岩見沢市立総合病院 臨床工学科 ME室

4. 納入期限： 令和8年3月31日

5. 一般的事項

- (1) 納入物品は、未使用新品とする。
- (2) 納入にかかる運搬費・設置調整費及び消耗雑材料等、当該物品が正常に使用可能となるまでの一切の経費を含む。
- (3) 受注者は納入期限を厳守し、搬入設置日時及び経路等については、設置部署と事前に協議調整の上決定すること。
- (4) 納品にあたっては事故が生じないよう十分配慮すること。

6. 検査及び引渡し

- (1) 納品及び調整完了後、管理課による検査を受け、正常に動作することを確認した上で発注者に引き渡すこと。
- (2) 導入物品の日本語版取扱説明書及び添付文書を1部備えること。
- (3) 操作説明及び導入時の教育訓練を当院担当職員に行うこと。

7. 保証期間

本物品の納入後1年間は、無償保証期間とすること。ただし、受注者または製造者の責に帰する破損及び故障については、保証期間終了後であっても無償修理または良品と交換することとする。

8. その他

この仕様書に定めのない事項については、別途協議し決定するものとする。

別紙要求仕様書

人工呼吸器は、以下の構成とする。

1. 人工呼吸器 2 台
2. 人工呼吸器（新生児対応） 2 台

1. 共通仕様として、以下の要件を満たすこと。

- 1-1 呼吸弁が本体内蔵であること。また、二次感染防止のため、呼吸弁のみ通過し本体内部は通過しない構造であること。
- 1-2 本体（架台・加湿器は除く）の重量は19Kg以内であること。
- 1-3 タッチ操作ができる、8インチ以上のカラー液晶ディスプレイを搭載していること。
- 1-4 日本語表示であること。
- 1-5 フロートリガ方式であること。
- 1-6 迅速で簡便に換気動作を開始するため、性別と身長を入力することで自動で理想体重を計算する機能があること。
- 1-7 非侵襲的陽圧換気モードは、プレッシャサポートモード及び強制換気ができるSTモードまたはPCモードの2種類があること。
- 1-8 ハイフローセラピーモードがあること。
- 1-9 患者の肺及び呼吸状態に応じた範囲で自動調整された調節呼吸及び自発呼吸の供給ができる換気モードがあること。
- 1-10 症例に適した換気開始のため、換気モードの初期設定のカスタマイズ機能があること。
- 1-11 吸気圧は、3～60hPaの範囲で設定できること。
- 1-12 呼吸回数は、1～80回の範囲で設定できること。
- 1-13 呼吸トリガは、5～80%の範囲内で設定できること。
- 1-14 最大吸気流量は、200L/min以上であること。
- 1-15 気道内圧・フロー・ボリューム波形を同時に表示できること。
- 1-16 気道内圧/ボリューム・気道内圧/フロー・ボリューム/フローのループ表示ができること。
- 1-17 アラーム設定は、気道内圧上限・分時換気量上限/下限・呼吸回数上限・一回換気量上限/下限設定の項目があること。
- 1-18 アラームメッセージは、重要度に応じてアラーム音及び色分けされ、日本語で表示できること。
- 1-19 アラームメッセージと設定変更などのイベントログを1,000件以上表示できること。また、データ保存のためUSBに転送できること。
- 1-20 モニタリング項目は、ピーク圧・呼吸分時換気量・自発分時換気量・総呼吸回数・自発呼吸回数・AutoPEEP（またはPEEPtot）・P0.1・呼吸時定数・ドライビングプレッシャなどの表示ができること。
- 1-21 肺コンプライアンスや気道抵抗をモニタリングできること。
- 1-22 ウィーニングの指標として酸素化や換気状況を認識するため、酸素濃度・PEEP・分時換気量・吸気圧・RSBを一度に表示できること。
- 1-23 ネブライザ機能を呼吸器本体に内蔵していること。
- 1-24 電源遮断時、60分以上の動作ができるバッテリーを呼吸器本体に内蔵していること。
- 1-25 ボリュームサポートモードがあること。
- 1-26 専用架台があること。

2. 人工呼吸器は、以下の要件を満たすこと。

- 2-1 小児、成人までの患者に使用できること。
- 2-2 一回換気量は、20～2000mlの範囲で設定できること。
- 2-3 ブロワを内蔵しており、圧縮空気配管の無いところでも使用できること。

3. 人工呼吸器（新生児対応）は、以下の要件を満たすこと。

- 3-1 新生児から小児、成人までの患者に使用できること。
- 3-2 一回換気量は20～2000mlの範囲で設定でき、新生児や小児に使用する場合は2～300mlの範囲で設定できること。